

群馬医療福祉大学・短期大学部 イメージ調査

大学改革推進センター IR室

目的 受験者数が減少する中で、本学の立ち位置を把握し、学生募集の再点検及び大学改革を目的として実施。「選ばれる大学」になるためには、何が必要なのか、本学のイメージは高校現場にどのように映っているのか。ただ単に「志願者が増えればよい」といった漠然としたものではなく、「データ」「質」「教育の接続」を重視した点検を行い、短期的には学生募集戦略に、中長期的には大学改革に役立てることを目的として群馬県内及び近隣の高校教諭を対象に、施設設備、教育方針、カリキュラム、入試等についてアンケート調査を実施した。

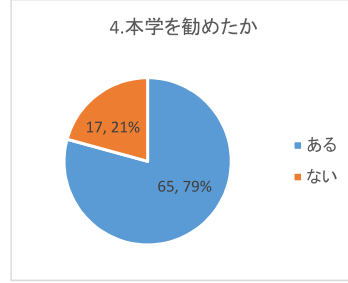
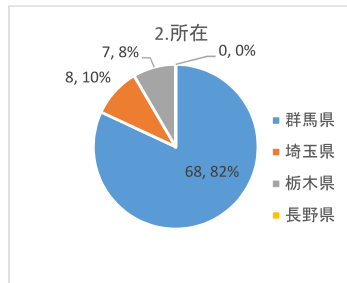
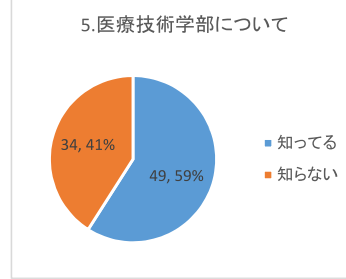
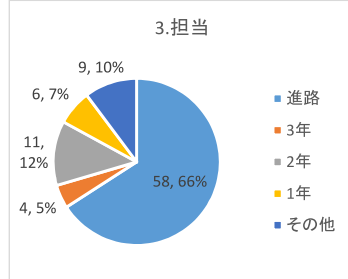
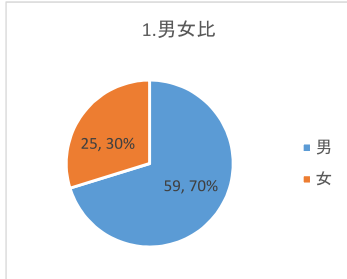
対象 高等学校教諭 進路指導及び進路指導以外の教員から1名 各校2名

対象地区 群馬県内 埼玉県本庄深谷地区 栃木県足利佐野地区 103校 206名

調査期間 2020年2月20日～3月20日

有効回答 41校 84名 回答率41%

回答者の所属等

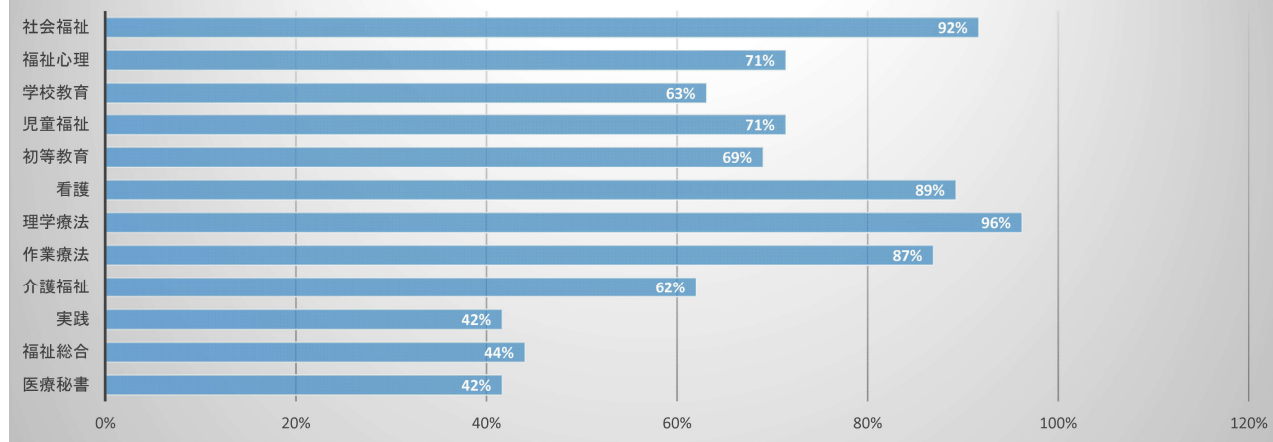


※認知度について

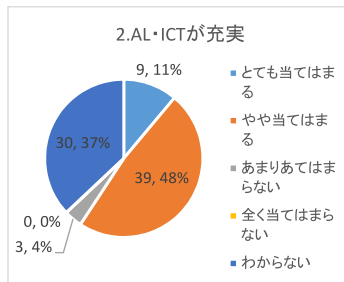
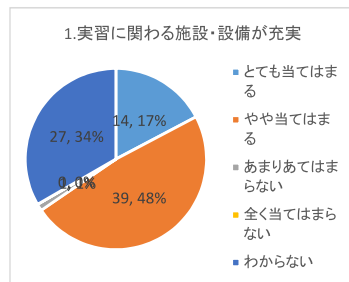
「本学を勧めたことがあるか」(グラフ4)の質問に対して約8割、「医療技術学部の開設について知っているか」(グラフ5)については約6割を占めている。進路指導担当に限ると79%が「知っている」と回答しており認知されていると言えよう。

またコース別の認知度に関しては理学療法専攻96%、社会福祉専攻92%と高く、医療系学部は87%以上となった。教育系コースは70%を割り、さらに短期大学部では介護福祉コースの62%を除いた他のコースは40%となった。医療福祉大学という大学名称によるところの影響が大きいと考える。

コース 認知度



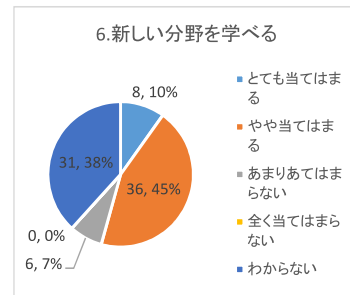
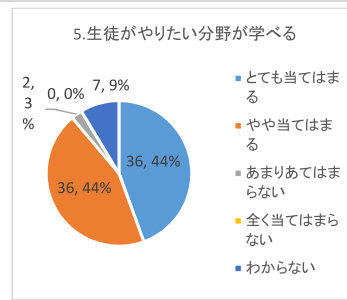
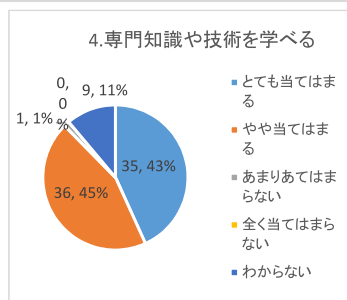
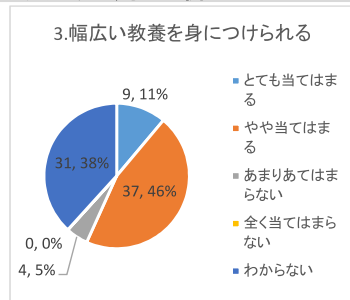
施設、設備に関して



※施設設備 環境に関して

「施設、設備が充実している」(グラフ1)の回答が65%となった。「AL・ICTの充実」(グラフ2)についても約60%の回答となった。これは医療系学部の医療器具、特別教室の設置がイメージにつながっていると考えられる。また、パンフレットやホームページ等でALやICTを利用した場面の写真を掲載したことが評価につながっていると考えられる。

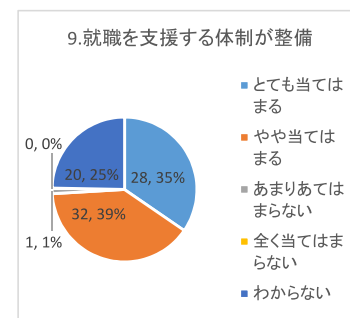
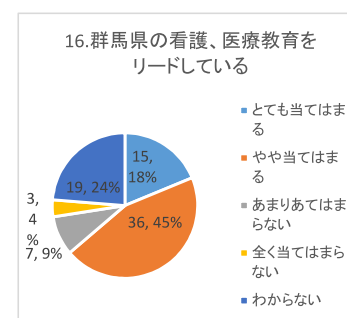
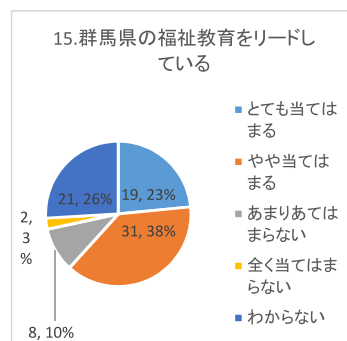
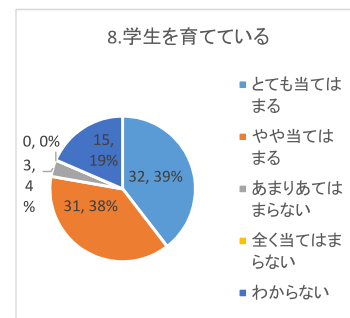
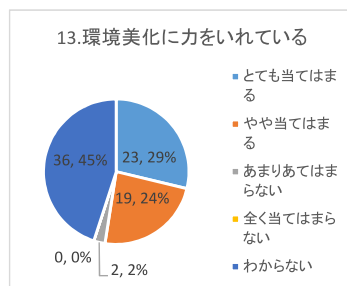
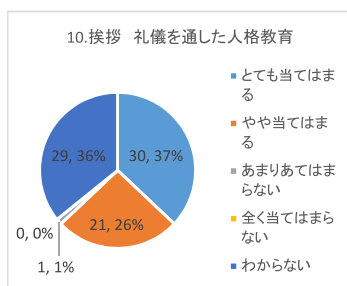
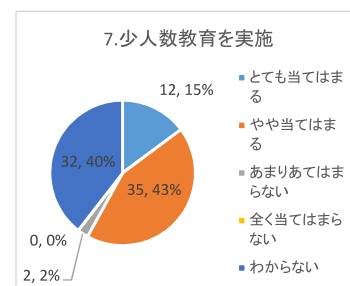
本学のカリキュラム、学びに関して



※カリキュラム 学びに関して

「専門知識や技術が学べる」(グラフ4)や「生徒がやりたい分野が学べる」(グラフ5)という質問に対して「とても当てはまる」・「ややあてはまる」が88%を占めている。この結果は医療・福祉専門職者をを目指す大学として当然といえば当然である。一方、「幅広い教養を身につけられる」(グラフ3)「新しい分野を学べる」(グラフ6)という質問に対しては前述した2つの質問と比較すると低調である。今後はリベラルアーツ系の科目について検討し、教養教育についても充実させることが求められている。

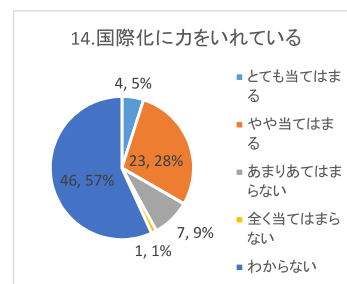
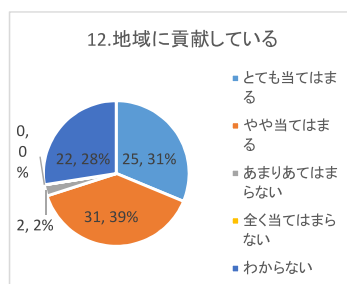
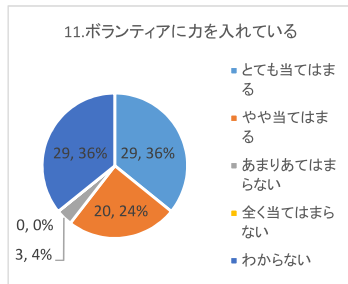
本学の教育方針について



※教育方針に関して

「学生を育てている」(グラフ8)「就職を支援する体制が整備されている」(グラフ9)の質問に対して「とても当てはまる」・「ややあてはまる」が約75%を占めている。これは学生をしっかり育て、質の高い人材を社会へ送り出していると評価をいただける。「本学が他大学と比較して優れている点は何か」を自由記述にて質問したところ「面倒見が良く、生徒を伸ばそうという姿勢が感じられる」「生徒ひとりひとりを大切にしている」と評価のコメントをいただいた。しかし、本学が教育の柱としている「礼儀、挨拶を通じた人格教育の実践」(グラフ10)、「環境美化に力をいれた教育活動」(グラフ13)、さらに「少人数教育を実施している」(グラフ7)の質問について「わからない」との回答が36%(グラフ10)、45%(グラフ13)、40%(グラフ7) となっており今後はより強調してアピールすることが必要である。

その他、「群馬県の福祉教育、看護、医療教育をリードしている」の質問に対して「とても当てはまる」・「ややあてはまる」が約6割を占めており、一定の評価を得ているが「あてはまらない」「全くあてはまらない」が10%を超えていることが懸念材料である。

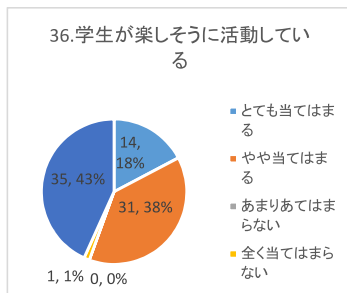
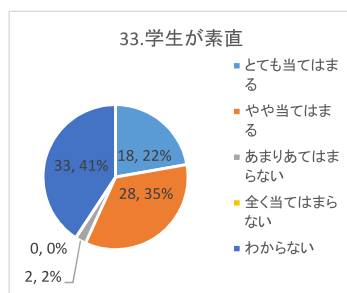
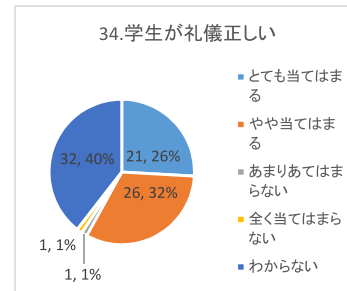
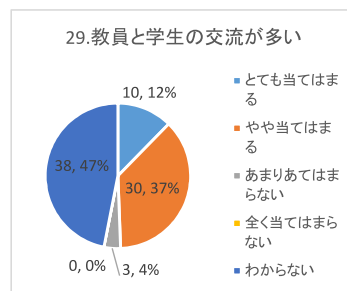
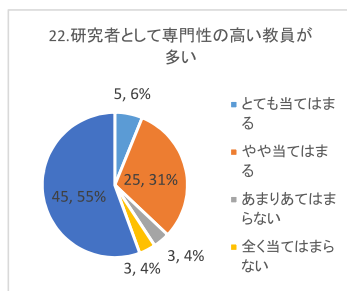
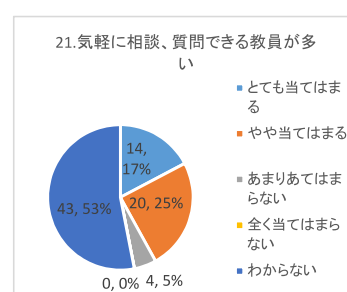
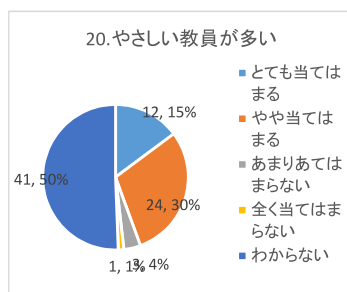
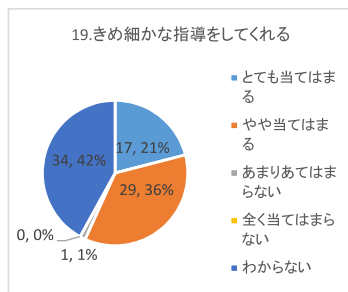


※社会連携に関して

「ボランティアに力を入れている」(グラフ11)「地域に貢献している」(グラフ12)の質問に対して「とても当てはまる」「ややあてはまる」が70%を占めている。自由記述においては「地域密着の大学である」、「ボランティア教育に力を入れ、地域の活動において学生をよく見かめるためとても地域に貢献していると思う」とコメントをいただいた。ただし、「ボランティア活動がパターン化されており、いつも同じ内容」であるという指摘も受けた。現在のボランティア活動の多くは学生が受動的な活動になっていることが課題である。学生自らが主体となって地域の問題を見つけ、その解決に向けた課題解決型学習(PBL学習)へと転換する。活動を通して地域社会でのコミュニケーションや交流を通じた社会人基礎力の育成も可能となる。

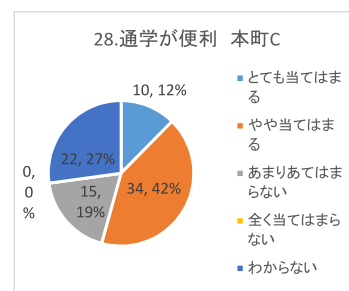
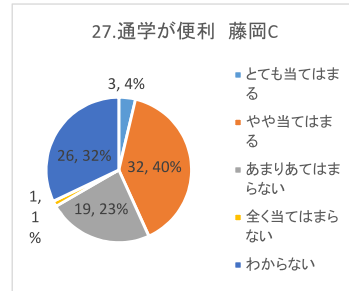
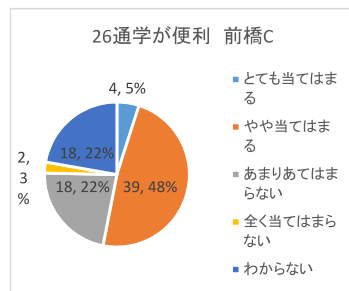
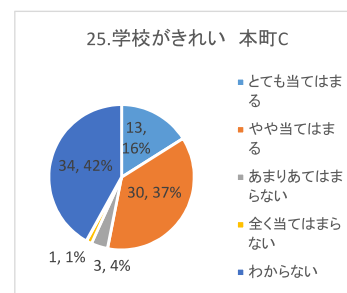
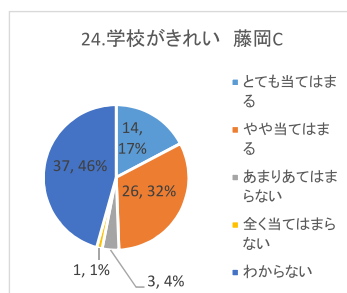
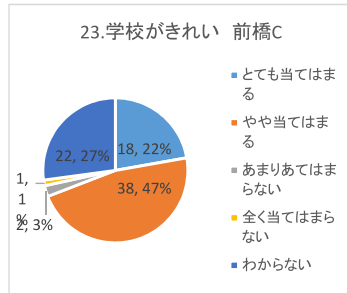
「国際化に力を入れている」(グラフ14)にの質問に対して「わからない」が57%を占めた。本学が協定校と実施する海外研修制度は2年を経過したところであり、まだ浸透していないところがある。今後はより海外研修の取り組みなどをパンフレット、ホームページを通してPRする取り組みが求められる。また、留学生の受入、ネイティブ教員の採用等、学内の国際化についても積極的に進める必要がある。

本学の教員及び学生に関するイメージ



教員・学生のイメージに関して

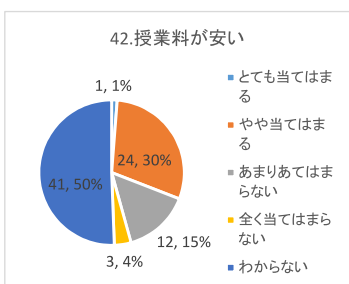
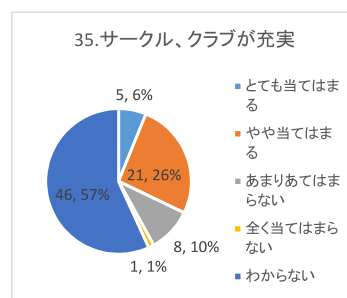
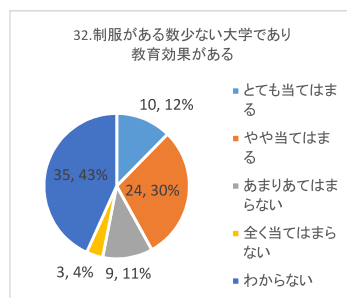
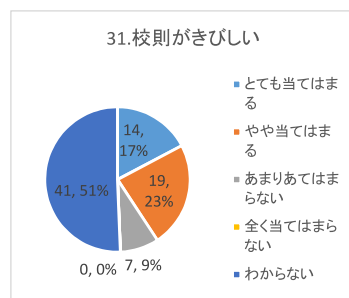
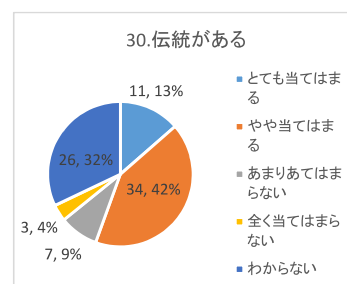
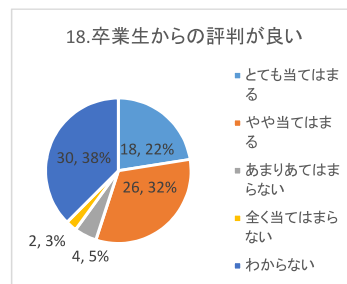
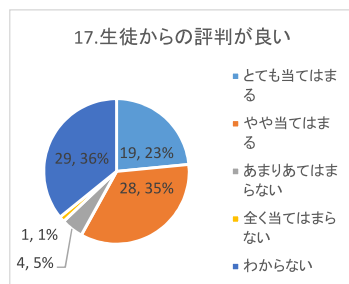
教員のイメージに関する回答(グラフ19～22)のうち「わからない」が40%～55%と半数近く占めている。これは本学の教員を外から見た場合、その活動がわかりにくいことを示している。特に教員の研究面において、世間から見た場合、注目すべきものがないということを物語っている。また学生への教育面でも、外から見た場合には、うまくアピールできていないと言えるのではないだろうか。



環境・交通手段に関して

「学校がきれい」(グラフ23.24.25)・「通学が便利」(26.27.28)の質問に対して、3キャンパスの中で前橋キャンパスがどちらもイメージが良い結果であった。特に「学校がきれい」の質問では、「とても当てはまる」「やや当てはまる」が約7割となった。他のキャンパスでは「わからない」が45%を占め、「キャンパスを訪れたことがない」や「施設を見たことがない」という教員が多いように思われる。通学の利便性に関しては半数が便利であると回答する一方、「あてはまらない」「全くあてはまらない」と回答する教員が前橋、藤岡キャンパスは4人に一人、本町キャンパスで5人に一人程度いることが分かった。自由記述欄では「キャンパスを1つにしてほしい」という要望が多く上がった。

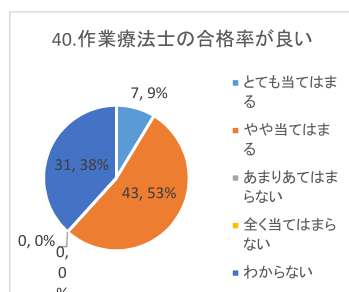
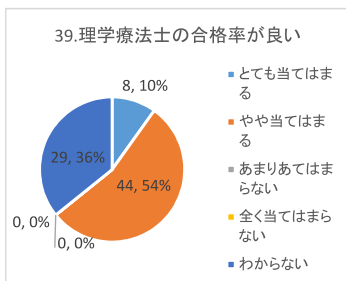
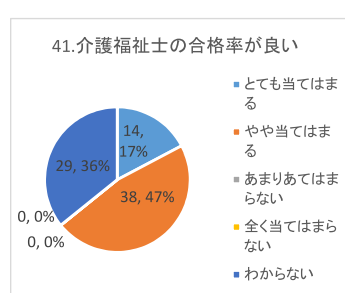
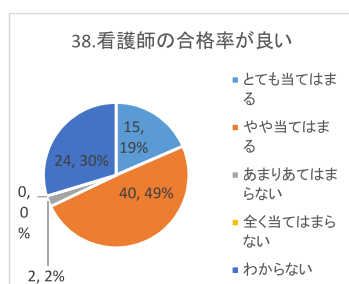
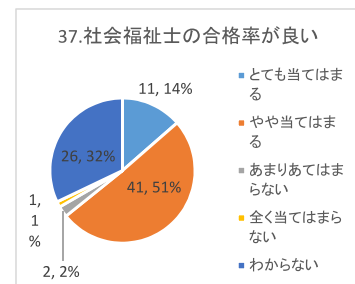
その他の本学のイメージ



その他 大学のイメージに関して

「生徒からの評判が良い」「卒業生からの評判が良い」(グラフ17.18)は「とても当てはまる」「やや当てはまる」で過半数を超えており、一定数の支持は得ていると言える。しかし「制服がある数少ない大学であり教育効果がある」(グラフ32)では、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」15%、「わからない」43%とあり、制服があることで教育効果があると、現場の先生は思っていない、または懐疑的であるということが示されている。その他の項目が「わからない」が4割前後示しており、外から見た場合に、本学のイメージが具体的には思いつかない状態である。ということを示していると言えるのではないだろうか。

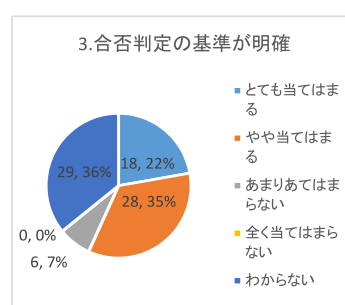
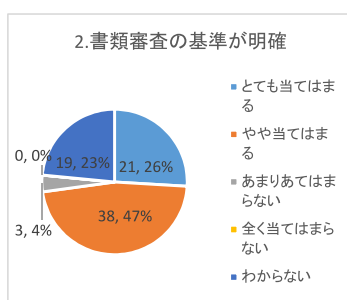
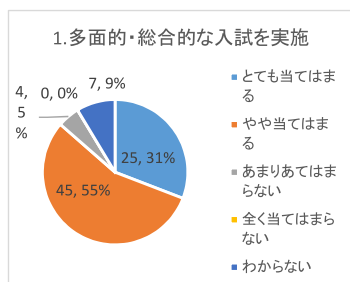
国家試験に関するイメージについて



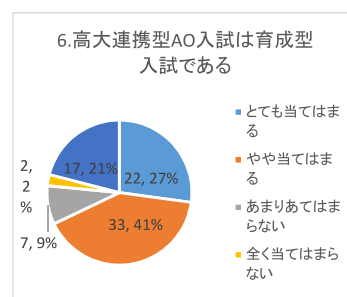
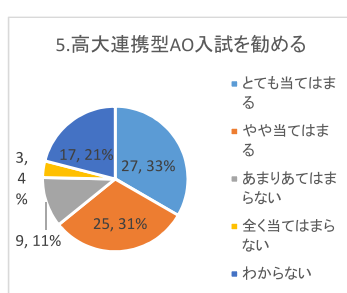
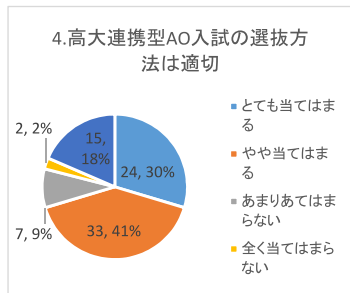
※国家試験に関して

「国家試験の合格率が良い」との質問にたいして「とても当てはまる」「やや当てはまる」(グラフ37.38.39.40.41)がすべての国家試験区分で65%前後となっている。これは決して悪い評価ではないが、平面的で印象に残っていないのではないかと考えられる。また3割強の教員は「わからない」と回答しており、今後どの国家試験区分においても地域一番校になることが、国家試験に強い大学としてイメージが浸透されるのではないかと考える。

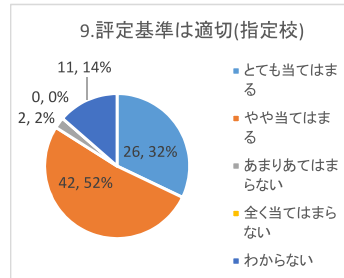
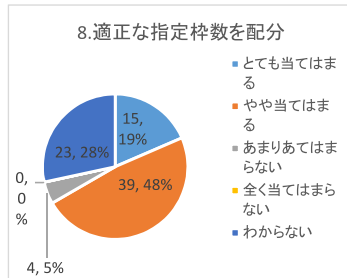
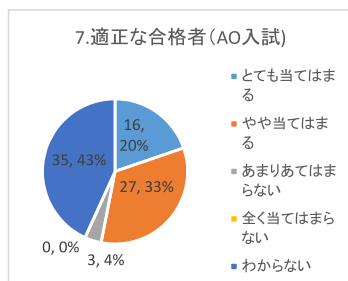
入学試験について



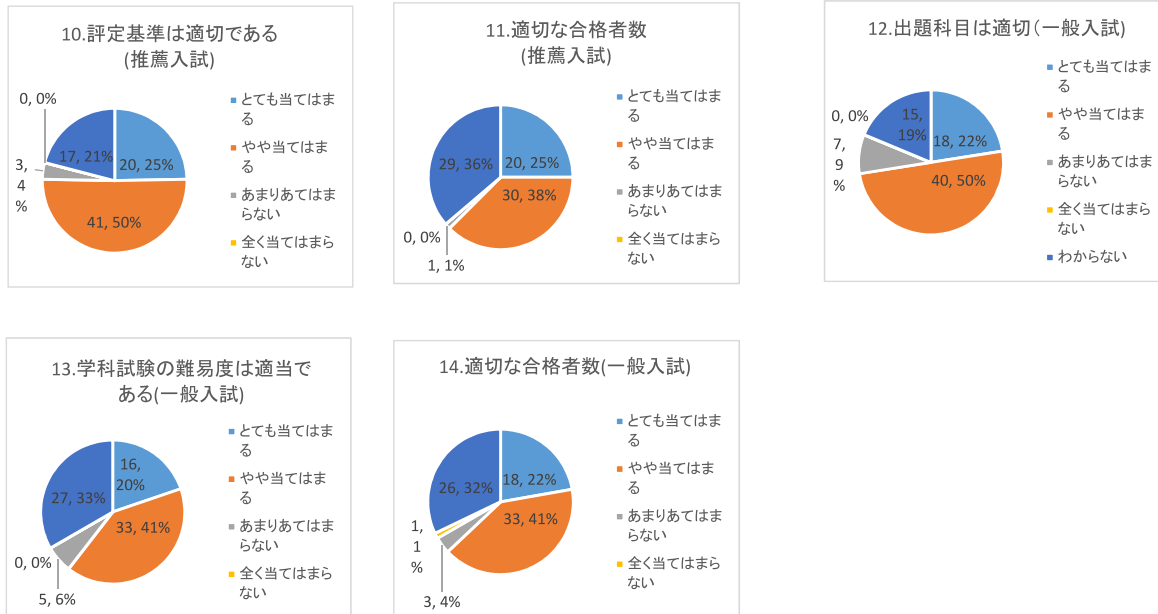
AO 高大連携型入試について



推薦入試について



一般入試について



入学試験に関して

「多面的・総合的な入試を実施している」(グラフ1)という質問について「とても当てはまる」「ややあてはまる」が86%と高い評価を集めている。これは本学が開学当初よりすべての入学試験において面接試験を導入していることや、2021年度の入試改革に向けていち早く高大連携型AO入試、プレゼン型入試など多様な入試形態を設定していることが評価されていると考える。高大連携型AO入試の選抜方法等の質問(グラフ2.3)についておおむね6割が「とても当てはまる」「やや当てはまる」と答える教員が多かった。コメントでは「高大連携型入試は適性をしっかりとみることのできる良い入試だと思う」、「高大連携型入試は入学後の学びをイメージしやすいので生徒に勧めやすい」と回答をいただいた。「高大連携型AO入試において適切な合格者を出している」(グラフ7)という質問については「あまりあてはまらない」「わからない」の回答が5割弱となった。推薦入試・一般入試においても同様であり、合格者数等を含めた入学試験の透明性が求められている。指定校推薦入試に関して「適切な指定校数を配分している」(グラフ8)の質問について「とても当てはまる」「やや当てはまる」が67%、「適切な評定基準を設けている」(グラフ9)の質問について「とても当てはまる」「やや当てはまる」が84%となっており高い評価を得ている。コメントとして推薦入試において地域枠があり、将来の地域医療従事者を育ててくれるのはありがたい」との回答があった。一般入試においても前述した2つの入試区分と同様の結果となっている。

自由記述欄

入試

高大連携型入試は適性をしっかりとみることのできる良い入試だと思います
高大連携型入試は入学後の学びをイメージしやすいので生徒に勧めやすい
高大連携の合格者をもう少し増やしてほしい
高大連携型AO入試はとても魅力的な入試である
本気で学びたい生徒を高大連携型入試で選抜して下さる点が素晴らしいと思う
公募推薦において地域枠があり、将来の地域の医療従事者を育ててくれるのはありがたい

理念・教育活動

教育熱心
人格形成
親切かつ丁寧
理念がしっかりとしている
面倒見が良く、生徒を伸ばそうという姿勢が感じられる
対応が良い 雰囲気が良い
きめ細かな指導をしてくれる
生徒ひとりひとりを大切にしている
社会人として質の高い卒業生が多い印象がある

礼儀 身だしなみ

身だしなみやボランティア活動に力を入れて、目に見える社会人育成を行っている
清掃やボランティアなど、学科の学びだけでなく人間としての成長を目指した教育をしている
礼儀正しい学生が多いというイメージ 卒業生が母校訪問で訪れてくれますが、充実した学生生活を送っている様子が伝わってきました
本校生で群馬医療福祉大学を志望する生徒は真面目な学生が多い。高大連携でお世話になっています。
校則が厳しいので良い学生が集まっている

地域貢献 ボランティア

地域密着であること 地元密着を考えてくれている
ボランティア教育に力を入れている点
福祉といえば貴学のイメージがあり、ボランティアなどでも学生をよく見かめるためとても地域に貢献していると思います

資格関係 その他

群馬最初の「福祉」教員を合格させた実績がある(教員採用試験)
保育士養成
医療 福祉 介護 子ども 教育の幅広い分野があり、多くの資格取得ができる
高大連携の細やかさ 高大連携を積極的に進めてくれている
キャンパスの立地は他大学に比べて良い環境にあると思う